

# ゴールドキウイの産地化による生産者手取の向上

東予園芸農協(愛媛県)

## 取組の概要

- 消費者ニーズの高い品種(ゴールドキウイ)の産地化を図り、生産者の手取りを向上
- 酒造メーカー等と連携し、規格外品を商品化
- JGAPの団体認証を取得

## 事業化(プロジェクト化)成功のポイント

### 1 ゴールドキウイの産地化

- ① 組合員の収益向上を図るため、消費者ニーズ(市場価格)の高いゴールドキウイを導入することとし、平成13年にゴールドキウイの育成者権を有する商社と契約を締結。

＜ゴールドキウイの販売価格(農家への支払平均単価、平成24年)＞

353円/kg(ゴールド種) ⇔ 191円/kg(ヘイワード種)

- ② 育成者権を有する商社が要求する規格・基準に適合するよう、組合員に技術指導を展開。

＜ゴールドキウイの栽培面積・農家数＞

平成15年(3.5ha、32名)→ 平成25年(33ha、142名)

### 2 規格外品を活用した商品の開発

西条市のマッチングにより、地元の酒造会社や食品加工業者と連携し、「リキュール」や「キウイ茶」を開発・販売。

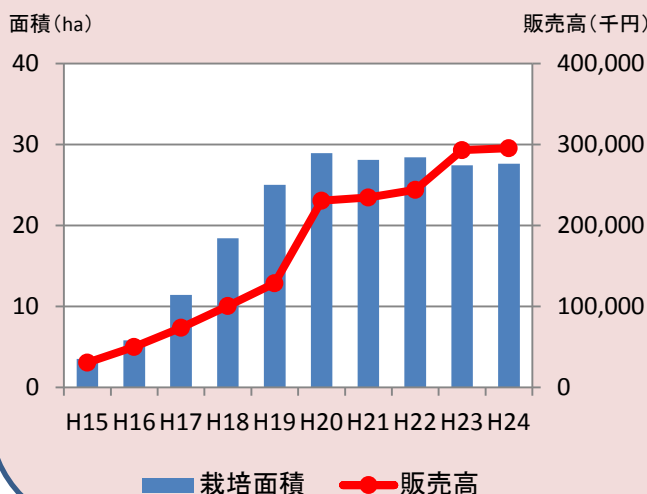
→ 廃棄処分されていた規格外品の有効活用が図られ、農家の収益アップに貢献。

### 3 GAP(農業生産工程管理)の取得

ゴールドキウイを生産する全ての農場でJGAPの導入に取り組み、平成22年にJGAPの団体認証を取得(→平成25年のGAP普及大賞を受賞)。

## 農協のメリット・農家のメリット

＜ゴールドキウイの栽培面積と販売高＞



＜「ゴールドキウイ」と「ヘイワード」の農家手取価格＞

